

## 教会に対する「危険？」な考え

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

韓国のキリスト教は、アジアやアフリカなど、非キリスト教世界では例を見ないほど盛んであると知られています。最近では成長・拡大の勢いが一旦止まったようですが、それでも人口の約3割をクリスチャンが占めています。日本のキリスト教信者の割合が1%を切ったことと比べれば雲泥の差を感じます。

しかし、西洋のキリスト教からの宣教・伝道の歴史からすると、インドや中国、日本などより少し遅れてその歴史が始まりました。例えば、日本プロテスタント教会＝新教の初めての宣教は、日本への初宣教師として来日されたアメリカ聖公会の C.M.ウイリアムズ主教により 1859 年に開始されます。この方こそ私たちの川口基督教会の創立者でもあります。

一方韓国においては、1884 年にアメリカ北長老派の宣教師が仁川港に到着した時から始まります。聖公会はそれよりも一歩遅れて 1890 年からです。これにまつわる逸話が伝わっています。韓国に上陸した初宣教師は、実は女性であるという説です。第 1 号の宣教師はご夫妻で来られたので、きっと下船の際に「レディーファースト」というマナーに従って奥さんが先に宣教地に着いたはずであるという話です。そこから、韓国教会は宣教 125 年を迎えますが、仏教などの伝統宗教と肩を並べるほどの規模になりました。

さて、急激な成長を遂げた韓国のキリスト教は、しばしば世間の人々からひんしゆくを買います。そのため、多くのキリスト教会は最近「健康な教会」として存続するための、自己点検を声高に訴えています。そういう中で「教会に対する危険な考え・10」という文章が目を見ました。多様に研究されている「教会のための〇〇リストシリーズ」の一つです。

「1. この教会はあなたのものではなく、私のものです。2. 私の教会では以前はこのようにしたことがない。3. 牧師ならそうすべきではない？ 4. それは大型教会にのみできること。5. そういうのは小さな教会であればできること。6. 私がためらわずに受け入れ得る変化のレベルは・・・まで！ 7. そのような人なら〇〇氏を支持できない。8. 私には出来ない！ 9. ここまでが私たちにできる最大限である。10. 私たちの教会は安定水準に達した。」

10 項目のタイトルを読むだけでも、なんとなくその背景にある現実や悩みが聞こえてきそうです。いわゆる「指定席？」にこだわる意識、合理的かつ望ましい変化に抵抗する頑なさ、神様の判断を遮るような速断などなど。他山の石として読んでいただきたい。

それから、2020 年の川口基督教会の 150 周年を準備しながら「教会に対する 10 項目」の川口バージョンを作ったら？と思いました。諸先輩たちの汗を基にしながら、160 周年、200 周年に向けて私たちが今こそやるべきこと、肝に銘じるべきことなど、新「針の穴計画」を立ててみてはいかがでしょうか。